

# 富士塚

平成25年(2013)、富士山は「信仰の対象」であり、「芸術の源泉」であることが評価され、世界文化遺産に登録されました。

日本には古くから、山の神様を大事にする習慣があり、富士山信仰はすでに平安時代には存在したといわれています。火山のもつ激しさを、自然の姿の象徴とし、富士の山霊信仰が生まれたと考えられます。

江戸時代中期になると食行身禄や村上光清<sup>注</sup>等の努力で、富士講が発展しました。富士講は、富士山とそこに住む神への信仰を行うための集団ですが、遠く高い富士山には、庶民が気軽に登ることはできませんでした。そのため、近くに小さな富士山をつくり、これに登れば富士登拝と同じ靈験<sup>れいげん</sup>が得られると考え、安永9年(1780)新宿区戸塚宝泉寺に、はじめて富士塚がつけられました。以後これをまねて各地につくられ、江戸川区でも明治の初めから大正・昭和にかけて盛んにつくられました。



逆井の富士塚(平井浅間神社)

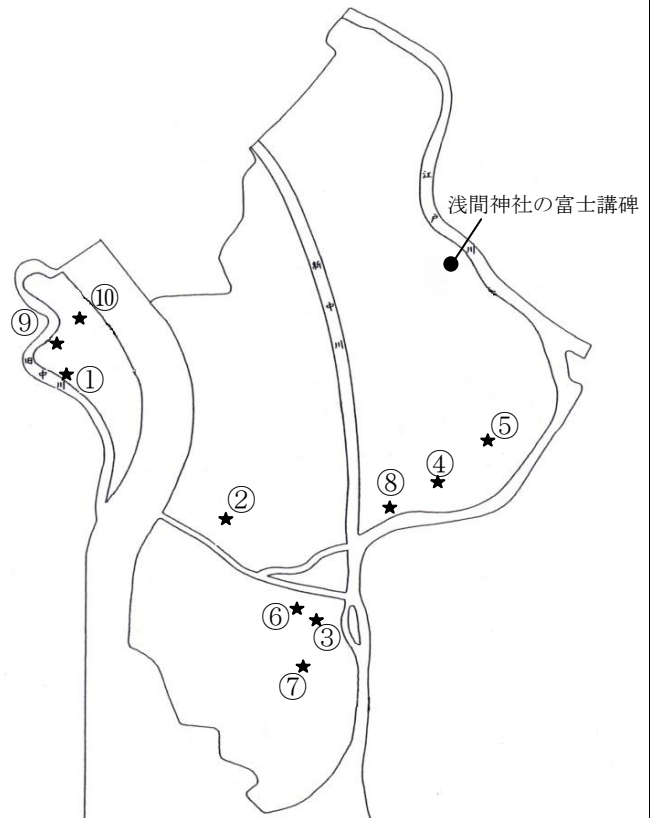
## 注：食行身禄や村上光清

食行身禄は、江戸時代中期の富士講指導者。17歳のときに富士信仰に入り、富士登拝を毎年行い、信仰を深めました。享保2年(1717)に富士講第六世行者となり、その教えは江戸時代後期の富士講の繁栄を導きました。

村上光清は富士講第五世行者の子で、講中で頼母子講<sup>たのもしこう</sup>をつくって利潤をあげるなど、組織者として優れた才能を示しました。以降、食行派と光清派の二つに富士講は分かれました。

## 区内の富士塚

	区内の富士塚	所在地
1	逆井の富士塚	浅間神社
2	船堀の富士塚	日枝神社
3	長島の富士塚	香取神社
4	下鎌田の富士塚	豊田神社
5	上鎌田の富士塚	天祖神社
6	桑川の富士塚	桑川神社
7	中割の富士塚	天祖神社
8	今井の富士塚	香取神社
9	平井の富士塚	諏訪神社
10	安養寺の富士塚	安養寺



この10基は江戸川区登録文化財です。そのほか都区内には国・都・区文化財の富士塚が25基あります。

富士塚は、今でも庭園などに使うボク石(溶岩)を運び積みあげ、合目石ごうめいしを配し、浅間神社・小御嶽神社こみたけを祀っており、高さは大きいもので5メートルあります。

その特徴として、①山頂に近づくほど鋭くなる。②登山道が曲がって階段になる。③富士講の碑がある、などがあげられます。

富士塚は富士を信仰した人びとの血と汗の結晶といえます。区内の富士塚のほとんどが、江戸川や旧中川などの岸边近くに多いことから、重いボク石や材料を船で運んだものと考えられます。人びとのたいへんな苦労をおもい、その遺産として大切に残したいものです。



長島の富士塚(香取神社)

## 江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階  
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)